

事業完了報告書（実行団体）

| | |
|----------|----------------------------------|
| 事業名: | 留学生・技能実習生対象「食・住・職」支援 |
| 資金分配団体名: | 認定特定非営利活動法人日本都市計画家協会 |
| 実行団体名: | 特定非営利活動法人Oneself |
| 実施時期: | 2021年6月～2022年2月 |
| 事業対象地域: | 兵庫県神戸市 |
| 事業対象者: | コロナで帰国困難及び進学断念等の理由がある留学生及び技能実習生。 |

Version 3.2

日付: 2022年2月28日

I. 事業概要

| | |
|--------|--|
| 事業実施概要 | <p>〈事業概要〉</p> <p>①特定活動ビザを取得したもののアルバイトが見つからず、生活費が不足している留学生に対して食料品を無償で提供する（食糧品支援）</p> <p>②コロナで家賃が滞納し退去せざるを得ない留学生や技能実習生に対して無償で国際交流シェアハウスやどかりの空室を提供する（住環境支援）</p> <p>③日本での就職を希望する留学生に対して特定技能ビザに向けた学習環境の提供及び企業や人材派遣会社を通しての就職活動の提供を行う（就職活動の支援）</p> <p>〈実施概要〉</p> <p>①月に1回（第2土曜日10：00～12：00）に食料品提供を実施。同事業に該当する実施時期では延べ150名が食料品提供を必要とした。ヒアリング内容等に応じて食料品提供の回数や量を増やし臨機応変に対応した。特に提供する食料品は母国でよく食べていたもの等をヒアリングから確認し、インターネットで発注。できるだけ対象者に寄り添い事業を進めた。②県外からも入居依頼があり、中には監理団体からの問い合わせや、技術人文国際ビザで働いている方々からも問い合わせがあった。その他、当初は予定していなかった数日滞在等、対象者が抱える課題等に合わせて提供期間等に対応した。③インターンシップ活動に関してはコロナ禍で苦戦した業種もあったが、当初の予定にはなかった農業インターンシップ等、新たなニーズも生まれた。また神戸市各課が同インターンシップ事業の意義を理解してくださり、企業へ同行してくださる等の連携が生まれた。</p> |
|--------|--|

II. 課題・事業設計の振り返り

| | |
|-------------------|--|
| 課題設定、事業設計に関する振り返り | <p>〈全体振り返り〉全体的には事業計画に沿って実施できた。昨年度から実施している食糧品提供でのヒアリングを窓口とし、住環境支援や就職活動の支援へと結びつけることができた。インターンシップの活動については当初の予定よりも業種が増え、新たな受入先を探すことになったが、神戸市がサポートをしてくれ希望に沿うインターンシップ先が提供できた。一方で、当初計画していた特定活動ビザの対象者からは申込が少なかった。考えられる理由として特定活動ビザで国内に滞っている方は日本語学校や大学、企業等に属していないため、SNS等で拡散していた情報をキャッチしてもらう必要があり、当団体からの広報がなかなか届かなかったのではないかと考える。またベトナム人の多くが食料品提供等に頼るのではなく、コロナ緊急貸付として借入ができる生活福祉資金(社会福祉協議会)を申請するケースが多かった。一部で返済不要という情報が流れていたこともあり、兵庫区社会福祉協議会窓口で同事業のちらしを配布し説明をしても「お金を借りるからインターンシップには参加しない」と断られることもあった。これらの理由から神戸市にはベトナム人留学生が多いものの、同事業には結びつかなかったと考える。</p> <p>〈新たな課題・ニーズ〉国の情勢不安もありミャンマー人留学生の申し込みが増えたり、コロナ禍でDV被害に遭う方等、当初の対象者を超過して申し込みがあった。それに伴い、生活支援や行政機関との連携・相談しながら個別対応を行った。また15歳で同事業に参加していた方からは日本の高校へ進学したいという申し出があり、高校受験対策を急遽取り入れることになった。兵庫県では外国人特別枠と呼ばれる来日2年未満の方が受けられる高校入試があり、その枠を目標に英語と数学の教科支援も始めたが、保護者からは生後間もない第二子の面倒を見てもらうために来日させただけで高校進学は考えていないと学費等々の捻出はしないと回答があった。このままではヤングケアラーになってしまう可能性が十分あるため、夜間中学校や定時制高校等への進学を視野に入れて来年度は教科支援も強化して事業を継続しようと考えている。</p> <p>〈事業設計〉建設クラスについては座学と現場で理解しなければならないことにズレが生じていたり、特定技能試験の問題文が介護のように多言語化されていないこともあり、特定技能試験を受験できるレベルに達していない。また介護クラスについては2022年1月以降に新型コロナウイルス感染症オミクロン株拡大によりインターンシップ事業が完全にストップしてしまった。また受講者がオミクロン株に感染する等、対面授業での実施ができなくなり、急遽オンライン授業への対応が迫られた。</p> |
|-------------------|--|

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

| ①受益者 | ②課題 | ③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット） | ④指標 | ⑤目標値・目標状態 | ⑥結果 | ⑦考察 |
|----------------|------------|--|--|---|--|---|
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | 食料関連の不足 | 新型コロナウイルスの影響により収入が減り食費が確保できなくなっていたが、食糧が確保できるようになる | 米2kg/5kgと食糧品関連を提供 | 15～20セット/月 | 2021年6月～2022年2月 150セット(月1回提供分) | ヒアリングと食料品提供をセットにして実施したことで来館しやすい環境が提供できたと思う。当初は食料品提供だけを希望していた対象者もいたが、その後介護や建設クラスへの参加を希望する対象者もいて生活再建へ向けた長期的な支援が求められた結果だったと思う。 |
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | 居場所の不足 | 新型コロナウイルスの影響によりアルバイトが減少し、家賃支払いが滞納・未納したことで住居を失った方が居場所を得る | コロナへの配慮が必要なため個室提供 | 10室提供（個室） | 長期滞在用者…6名 短期滞在用者…4名 | 長期滞在用者がほとんどだったが、一部シェルターの役割を担うことがあった。今回の事業には県外からの参加希望もあり、住居提供を含めた支援が必要とされることがわかった。 |
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | 学習機会の不足/格差 | 特定技能ビザ取得に向けた試験を受験し合格するために、平日午前中4コマは日本語指導を行い、午後から曜日によって介護・建設とそれぞれ学科指導及び実技指導を行う。 | 特定技能試験受験 介護…日本語+介護知識に関する試験 建設…基礎知識+実技試験 | 特定技能ビザの取得。 社会福祉法人や建設会社や工務店等への就職。 人材派遣会社と連携し輩出先を探す。 | 38名が登録。各クラスへの希望者①日本語クラス…N4～5クラス8名・N3クラス4名 ②介護クラス…8名 ③建設クラス…18名 | 留学ビザの参加者が増えたことで介護や建設などの専門知識が学べるコースを併設していたことに効果があった。また日本語がほとんど話せない対象者を長期的にサポートできたことで、特定技能試験合格へと結びつけることができた。 |
| 外国人・外国にルーツを持つ人 | 就業困難 | 介護・建設・農業分野へのインターンシップを実施。実施場所は神戸市内のみならず養父市等にも展開。また就職相談・進路相談を実施。 | 介護施設・建設現場へのインターンシップ | (介護)6社…2020年9月～継続(建設)6社…2020年11月～継続(農業)8社…2020年11月～継続(その他)左記3業種以外への就職支援 | 外食分野への就職決定者3名・就業継続者3名・農業分野への就職内定者1名・介護分野への就職内定者2名 | 就職決定・内定が短期間で結果として出せたことは今回の事業が対象者が抱える課題のみならず、外国人の新規入国が停止したことで痛手を受けた企業へのフォローにも繋がったと考える。 |

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

| | |
|----------------|---|
| 事業実施以降に目標とする状況 | 同事業で特定技能ビザ取得に向けた試験合格者を介護は100%、建設は80%以上に設定する。介護希望者全員に就職先が確保されていることとする。建設希望者については塗装・内装工等のアルバイト（特定活動ビザ）を通して特定技能ビザ取得試験に再度挑戦できるよう支援を行い、就職先の確保に努める。 |
| 考察等 | 今回の事業では現在特に人材不足となっている介護と建設の特定技能試験合格に向けてクラスを開講したが、ベトナム人留学生は同国から技能実習生として来日している人達とコミュニティがあるため、職場で不当な扱い（暴言・暴力・残業手当未払い等）を受けるケースを耳にしており、同事業への申し込みの際に両クラス以外の業界を希望する対象者もいた。外国人材の雇用について日本も体制の見直しなどを強化する必要があると考える。一方で就職決定・内定が短期間で結果として出せたことは今回の事業が対象者が抱える課題のみならず、外国人の新規入国が停止したことで痛手を受けた企業へのフォローにも繋がったと考える。特に介護・農業分野においてはインターンシップを受け入れてくださる・前向きに検討して下さる企業が多かった。介護施設においてはオミクロン株感染者が減少すればインターンシップ受入を再開したい、あるいは実施したいという企業もあり、来年度へ向けて継続的な事業運営が可能であると考えている。 |

V. 活動

| 活動 | 進捗 | 概要 |
|---|--------|--|
| 日本語指導（平日9:00～12:50 1回50分×4コマ）日本語能力試験N3～N2対策 | ほぼ計画通り | N2レベルの対象者はいなかったが、代わりにN5～4レベルとN3レベルの2クラスを運営した |
| 介護学科指導（平日14:00～16:00 週に2回）特定技能ビザ取得に向けた基本知識及び試験対策…約3か月で1タームとする | ほぼ計画通り | 特定技能試験受験に関する問い合わせが多かったのが7月頃で、その後進路が決定した対象者が多く、申込数が当初の予定より減少した。 |
| 建設学科指導（平日14:00～17:00 週に2回）特定技能ビザ取得に向けた基本知識と基礎実技講習…約5か月を1タームとする | ほぼ計画通り | 留学ビザのミャンマー人男性の登録が非常に高く、建設分野に関する専門用語を知らない対象者が多く学科指導は難易度が高くなった。また実際の建設現場で行う作業手順と学科指導内容にズレがあり、即戦力として学ぶのか試験合格のために学ぶのか、学科指導のゴールがずれるところがあった。 |
| 建設実技指導（平日14:00～17:00 月に2回）上記建設基礎実技の確認と応用練習及び実技試験模試…約5か月を1タームとする | 計画通り | 専門用語がわからなくても母国で建設関連の仕事をしたことがある対象者もあり、実技は非常に積極的に取り組む対象者が多かった。 |
| インターンシップ…兵庫県内の企業・社会福祉法人において就業体験 | 遅延あり | コロナで介護施設へのインターンシップが一部中止となった。しかし農業分野へのインターンシップを希望する対象者が現れる等、当初予定していたインターンシップ先とは違う分野へも挑戦する対象者がおり、全体的にインターンシップ事業は順調に進んだ。 |
| 進路指導 | 遅延あり | 介護施設でのインターンシップができなくなったため、実際の現場を知ってから就職活動を行いたいという対象者に対して提供できる事業がなくなり、進路指導も止まったままの対象者がいる。 |
| 就職活動+フォローアップ | 遅延あり | 期間中に就職（アルバイト含）が決定した対象者が3名。内定者が1名。面接試験1名。履歴書作成が2名とそれぞれが就職に向けて前に進んでいる。 |

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

| | |
|---------------------|---|
| 想定外のアウトカム、活動、波及効果など | <p>①技術人文国際ビザを取得しているベトナム人3名から「コロナ禍で雇用条件（主に給料面）が急に変わり困惑している。転職したい。」という相談を受け、食糧品提供をしながらヒアリングを実施した。その後より辞めたいという気持ちが強くなっていったことから、数日国際交流シェアハウスやどかりの空室を提供した。企業の担当者や相談し雇用条件がなぜ変わったのか、元に戻る予定があるのか（あればいつ頃なのか）といった点について話し合いできる場を設けた。その後、雇用条件が従来のものに戻り3名は企業へ戻った。本来の自分達の居場所に戻すことができた。安易に転職活動へと支援を進めるのではなく、まずは現状の課題を解決するために企業と当事者の間に入ることで、企業も第三者の介入があることで雇用継続を前向きに考えてくれたと思う。</p> <p>②2021年秋頃からミャンマーのクーデターが悪化したことで、両親からの送金が止まってしまう学費が払えない・母国に帰れないという留学生が増加し同事業への申し込みが一気に増加した。当初は食糧品支援が必要なケースが多かったが、その後進学を諦めて就職したいというケースが増え介護・建設クラスへの参加希望者が増加した。またインターンシップにも積極的に参加する対象者が増えた。</p> <p>③当団体だけではインターンシップ先の開拓が困難になってきたため、神戸市国際課に相談をしたところ、神戸市農水産課や神戸市海外ビジネスセンター等にも連絡してくれ、神戸市担当者とともに建設会社や農園等にインターンシップ事業の話をするようになった。行政機関が伴走してくれたことで、民間企業や農家の方も話を聞いてくださり、その後正式にインターンシップ受入を4団体が承諾してくださった。今年度の事業が終了しても神戸市関係各課が継続してインターンシップ先の開拓に力を貸してくれることになった。</p> |
|---------------------|---|

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

| | |
|-----------|--|
| 課題を取り巻く変化 | <p>〈課題を取り巻く環境や対象者の変化〉コロナ禍で配偶者からのDVに遭い自立支援が必要な外国人からも問い合わせがあった。またブラジル人女性から家庭内でのトラブルについて相談があった。現在「家族滞在」ビザのため夫の給料で生活をしているが、日本語教室に通う際の交通費について「無駄な出費を増やすな」と言われたようで「日本語を勉強して仕事がしたい」と話す怒られたとのこと。その後、銀行通帳の暗証番号が勝手に変更されお金が引き出せない状況になっている。東灘区から通っているため電車以外に交通手段がなく現在日本語教室を休みがちになっており、離婚やDV等のリスクを避けるためのサポートが必要だと感じている。〈今後の活動について〉特定技能試験の受験が決まっている対象者がいるため、3月も事業を継続する。また、就職活動中、内定者が正式に雇用されるまで等、一定の支援期間が必要な対象者もいる。その後はインターンシップ事業を主に来年度も事業継続を考えている。理由としては外国人採用に対してハードルが高いと答える企業も多く、日本語能力試験や面接での会話などでコミュニケーション能力を測るしかないという声や、もう少し性格を知る時間があれば、担当してもらった業務などをイメージしやすいという声があった。また外国人の方々からも正式に採用される前に業種や企業の雰囲気を知れるのがとてもいいという声があった。在留資格を失うと帰国しなければならぬ外国人にとって就職に対する覚悟やハードルは私たちが考える以上に高く、一度入社すれば条件が違ったりしてもなかなかやめたいと言出しにくいという懸念があったため、今回の事業にはその双方が抱える課題の解決策を導くことができたと考えている。</p> |
|-----------|--|

VIII. 他団体との連携

| 連携先 | 実施内容・結果 |
|---------|--|
| 食糧品支援 | NGO外国人救援ネットやミャンマー関西などの普段から困難を抱える外国人にルーツを持つ方の支援をしている他団体からの連絡もあり、幅広い広報に結び付いた。 |
| 住環境支援 | 兵庫県社会福祉協議会と連携し、生活福祉資金の貸付申請に来た外国人の方に同事業を紹介（食糧品支援・住環境支援）したり、神戸市国際課から神戸市内で支援活動をする団体に一斉に広報をしてもらう等、行政機関と連携できた。 |
| 就職活動の支援 | 神戸市国際課・神戸市農水産課・神戸市海外ビジネスセンター等、インターンシップ先の開拓については行政機関と連携しながら進めることができた。農水産課との連携では3社の農業施設でのインターンシップが可能となった。また神戸市国際課とビジネスセンターとの連携では建設関連4社でのインターンシップが可能となった。 |

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

| | | 計画額 | 実績額 | 執行率 |
|------|-------|------------|------------|--------|
| 事業費 | 直接事業費 | 8,781,240 | 8,819,509 | 100.4% |
| | 管理的経費 | 2,018,760 | 1,980,854 | 98.1% |
| 合計 | | 10,800,000 | 10,800,363 | 100.0% |
| 補足説明 | | | | |

X. 広報実績

| 広報内容 | 内容 |
|--------------------------------|---|
| 1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等) | 無し |
| 2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの | インターンシップバッジ (留学生の日本語レベルとスキル、性格を視覚化したものを製作) |
| 3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例) | ・購入物でシンボルマークが貼れるものについてはシンボルマークを貼って管理している ・修了式で渡した修了書にシンボルマークを貼って対象者へ手渡した |
| 4.報告書等 | 無し |

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

| ①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む) | 状況 | 内容 |
|---|--|---|
| 1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 | 完了 | |
| 2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。 | | |
| 3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。 | 未公開 | 2022年5～6月頃 (臨時総会で規程類作成の承認を受け、その後理事会で微調整を行っているが、最終版として再度総会で会員向けに報告を終えてから一般公開としたため) |
| 4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 | 変更はなかった | 今回初めて規程類を作成したこともあり、変更点というより新規作成だったため左記を選んだ |
| ②ガバナンス・コンプライアンス体制 | 状況 | 内容 |
| 1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。 | はい | |
| 2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 | いいえ | 今回初めて規程類を作成したこともあり、定期的といえるほど実施していない。 |
| 3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。 | いいえ | 2022年5～6月頃 (臨時総会で規程類作成の承認を受け、その後理事会で微調整を行っているが、最終版として再度総会で会員向けに報告を終えてから一般公開としたため) |
| 4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。 | はい | |
| 5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。 | いいえ | |
| 6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可) | <input type="checkbox"/> 外部監査 | 団体の監事 (税理士) による監査を実施し、監査報告書の提出を受ける |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 | |
| | <input type="checkbox"/> 実施予定はない | |
| 7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。 | いいえ | |
| 8.内部通報制度は整備されていますか。 | はい | 内部に窓口を設置 |